

ウミガメのふるさと



みなべ町の自然豊かな美しい海岸、千里の浜や岩代の浜はアカウミガメの産卵地としても有名で、本州一の産卵数を誇ります。

産卵シーズンである5月から8月上旬にかけてたくさんのアカウミガメが夜間に上陸し、卵が水に浸って死んでしまわないように高潮線よりも高地の砂場を選んで卵を産みつけます。上陸して卵を産み、海へ戻るまで約2時間の大仕事です。

卵は2カ月ほどでふ化し、子ガメたちは夜を待って海に向かいます。夜は海面が反射して明るいからです。建物などの人工灯が多い浜では子ガメは方向を誤って海へ戻れないため、親ガメは本能的に光のある浜を嫌がり、自然豊かな浜を選ぶのかもしれない。

無事に生まれた子ガメたちも小さいうちは鳥や魚の餌食になることが多く、1シーズンに成熟体になるのは1~2匹くらいではないかといわれています。

ウミガメを守る人たちは、生まれてくるかけがえない小さな命のために安全な環境づくりに活動しています。



青年クラブのウミガメパトロール。夜の浜を見回り、卵が危険な場所にあると、慎重に掘り返し、安全な場所へ移動させる。



20年以上もウミガメ保護活動続ける町ウミガメ研究班の後藤清さん。



800種類の魚が揚がる、みなべ **深** 紀行 黒潮の幸の宝庫です。



紀州灘に面して黒潮の恵みを受ける、みなべの豊かな水産業。漁港では、イワシ、ヒラメ、伊勢エビ、カツオ、アジ、タチウオ、ガシラ(カサゴ)、サバなどをはじめタカアシガニ、タコ、イカなど800種を超える近海ものの鮮魚介類が水揚げされ、活気に満ちた大漁の歓声が響きます。

また、めざしやイカの一晩干し、シラスちりめん、アジの開き、カマスの開きなどの干物をはじめ水産加工も盛んに行われています。

